

進路指導部だより

令和7年 12月 12日（金）

都立小金井特別支援学校

校長 村山 孝

進路指導部 吉田 忠史

初冬の候、寒さも一段と厳しくなってきましたが、保護者の皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。2学期の進路に関する報告を以下にお知らせします。ぜひ、ご覧ください。

小学部6年生 インターンシップ「小金井郵便局」



令和7年9月 12日（金）小金井郵便局へ行きました。事前に郵便局の仕事の内容や様々な職業について学びました。また、暑中見舞いを作成しポストへ投函する活動も行いました。

インターンシップ当日は、ポストの中を見たり、実際に配達へ行くバイクや集配部屋を見たりしました。質疑応答では「仕事が始まる時間と終わる時間はいつですか。」「小金井郵便局はいつできましたか。」「働いている人は何人ですか。」と質問し、その答えを興味深く聞くことができました。

[中学部2年インターンシップ]

9月 19日と 10月 24日に都立田無特別支援学校高等部作業学習清掃班の生徒に本校に来校していただき、清掃作業の実演と実技指導を行っていただきました。

1回目は、実際に作業をしている様子を見学して、作業手順についての説明を聞きました。先輩達のきびきびした動きに生徒たちは目を見張っていました。2回目は、ダスタークロスと自在ぼうきの扱い方について、田無特別支援学校の生徒に1対1で丁寧に実技指導をしてもらう場面もありました。また、スクイージーでの窓掃除も体験しました。中学部生徒は、緊張しながらも真剣に取り組みました。終了後、参加した生徒からは「先輩達はすごかった、とても上手だった」、「ダスタークロスのスネーク技法が難しかった」等の感想も聞かれ、実際の作業を間近で見て学ぶことができた貴重な機会となりました。



保護者向け進路研修会報告

10月28日(金)に本校地下会議研修室にて、「親なきあと」相談室主宰/行政書士・社会保険労務士の 渡部伸 様 を講師にお招きし、下記のテーマで講演会を行っていただきました。

テーマ：障害のある子の将来のお金と生活 ～「親あるあいだ」の準備～

「親なきあと」の課題として、①お金で困らないための準備をどうするか、②生活の場をどこに確保するか、③日常生活のフォロー、困った時の支援はどうなるのか、3点に着目してお話をしてくださいました。

①お金で困らないための準備

お金の残し方、どうやって残すのか、お金をどうやって管理するのかについて、成年後見制度や日常生活支援事業の活用方法、福祉型(家族)信託についての説明や具体例、障害者扶養共済制度、成年後見制度の説明、また日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)についてのお話もありました。

②生活の場をどこに確保するか

障害者支援施設、グループホーム、福祉サービスを利用した一人暮らし、高齢者住宅、兄弟姉妹や親類との同居等の生活の場での具体例、また、先進的な取り組みをするグループホームについてや生活を支える制度や仕組みも合わせて説明がありました。

③困った時の支援はどうなるか

頼れる人として支援施設の支援員、グループホームの世話人、通所施設の職員、ガイドヘルパー、民生委員、知的障害者支援員などを挙げ、今のうちから福祉サービスを積極的に利用したり、地域で支援してくれる方とたくさん接点をもったりすると、セーフティーネットの網目がどんどん細かく強くなるのお話がありました。

まとめとして、

- 定期的にお金が入る仕組みを用意する。(年金、手当、信託など)
- そのお金が子供の生活に使われる仕組みを用意する(成年後見、日常自立支援事業など)。
- 生活の場＝住む場所を確保する。
- 困った時に頼れるルートを確保する。

上記の準備が思うようにいなくても、地域の中で接点をもっていれば、子供の面倒は周囲の方が見てくれる、まずは地域で接点をもつ重要性を強調されていました。そして、今の段階ですぐに準備に取り掛かるということではなく、制度について知って、必要な時に調べられるようにしておくことが重要です、とのお話でした。

そして、最後に

- 社会と接点をもつ＝子供のことを話せる相手を見つけておく。
- 状況は良くなっている、と気楽に構える。
- 最低限の準備をしておく。
- いざとなったら何とかなる。

との言葉をいただき、講演会が終了しました。

以上、進路指導部からの報告でした。次号以降も、進路に関する情報を掲載していきます。